



F · K · C

FURANO KOTOBUKI COLLEGE

THE TIMES

富良野市教育委員会教育振興課社会教育係 電話 0167-39-2318 文責：上 用 眞一郎

September 9月に乾杯！

9月に入り、1日(日)は久しぶりに清々しい青空でした。天気予報が“絶好の洗濯日和。バスタオルも速乾！”ですから、湿度が高い日が続いたということです。これで、気持ちよく外干しができます。

長月の9月、夜が長くなる月、夜長月から来たそうです。随分と日も短くなりました。それにしても予測不能な10号でしたが、ようやく低気圧に変わりました。進路が定まらず、のらりくらりと強い勢力のまま各地に大きな被害をもたらしました。

この秋の実りと収穫に影響がないと良いのですが心配ですね。

さて、カラッとした日曜の朝、我が家の山ぶどうが色付き始めました。また、ブラックベリーが少しですが収穫できそうです。秋ですね。

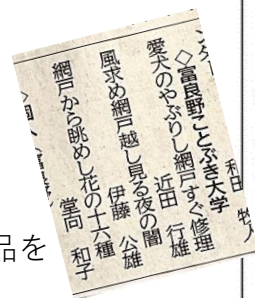
ここで、妻が一句、「はや白露夏掛け探す日曜日」はどうでしょう。

このところ、道新の俳句に、ことぶき大学の皆さんの作品が掲載されています。土曜日は、新聞を取りに行くのがとても楽しみです。

31日は、ことぶき大学のOG岡田さん、武内さん、そして俳句講師の橘先生の作品も掲載されていました。

俳句がとても身近なものになりました。皆さんも気軽に作品を作ってLINEにでも投稿してください。待ってます。

今回は、狂言について学習しました。第一部の野村家親子三代のドキュメン



◇アカシヤ俳句会(富良野)
團圓らの浴衣姿のはしゃぐ声
かな山の湖水に写す大花火
かな山の湖水に写す大花火
武内 昭子
喧嘩の路傍に挿る立葵
橘 千祥

◇富良野ことぶき大学
網戸ごし微風入れて朝餉かな
風鈴の首に和みて午睡かな
にくき虫網戸隔ててにらめつ
今 靖直
磯江知代子



タリーは好評でした。
祖父の万作は「重要無形文化財保持者」、「人間国宝」として認定されており、同時に狂言の伝統を後世に伝える使命も背負っています。
3歳で初舞台に立った息子の萬斎、厳しい指導の親に対し、かなり反抗

的であったと振り返る半面、比較的従順な息子の祐基の姿に一抹の弱さを感じている…でも、きっとそれは弱さではなく現代の若者が持っている適応能力だと私は感じます。祖父と父から受け継いでいる能力、天賦の才ではないでしょうか。

狂言師野村家親子三代、違った次元で自分らしい新しい狂言の道を探ろうとしているのはまさしく野村祐基だと感じました。父、野村萬斎曰く、「伝統とは、その時代その時代においてバージョンアップしながら進化することで引き継がれるものである」という意味も理解できます。第二部の狂言檜山節考は字幕スーパー付でしたので、理解しやすかったようです。

俳句と同様に、狂言がとても身近なものとなった気がしています。

大学院2年の宮西さんから、「狂言をなまで観てみたい!」と感想を言ってくれました。来年、札幌公演などあれば、希望者を募り観に行きましようか。

第一回のパリ公演は、1978年。狂言が国際的な認知度を高める機会になったようです。そして、40年後の2019年、“野村家三代パリに舞う”また、狂言の魅力を世界に広げたようです。秋のパリも良いですね。行ってみましようか…

本日9月4日(水)の日程

9時30分 朝の集い インターンシップ 富良野緑峰高校生の紹介

10時00分 **エチケット講座「手紙・ハガキの書き方」** 講師：橘 千祥 先生

12時00分 昼食・休憩

13時00分 **文学講座 百人一首** ※

14時10分 学年(課題)別研究

学年別研究の時間を1時間設定します。研究を進めていく上で

必要があれば事務局もお手伝いします。声をかけて下さい。

15時00分 帰りの集い 演劇練習



藤原定家

※ 文学講座 「百人一首」

かるたと言えば、北海道では下の句かるたです。富良野でも人気がありますし、子供会での活動もあるようです。木札には朴木(材木)が使われ、軽くて耐久性があります。書体は草書のような字体(変体仮名)が使われ、小さい頃は絵札のような感覚でした。

この下句かるたは、明治維新後、会津から北海道に入植した人々によって広まりました。(北海道文化団体 全日本下の句歌留多協会 HP から引用) 今回の講座は、かるた大会から始まり、百人一首の中から何首かを拾い上げ、その和歌に秘められた謎について触れたいと思います。



フロアカーリング同好会 暑さに負けず！



6月から旧布部小中学校体育館で活動を開始したフロアカーリング同好会、現在20名の会員で、週1回木曜日に楽しんでいます。

池田学会長をはじめ、役員の方々が早めに来て準備、月1度景品つき大会も実施しています。それがまた楽しいのです。ダーツ式得点シートで個人戦を競ったり、工夫して練習課題を設定。楽しむことから勝つための練習など幅広く、しかも実践的です。

お蔭様で、皆さん大変上手（片平・上用も）になりました。

フロアカーリング同好会は、健康の保持増進とコミュニケーションの場として成果をあげているのではないのでしょうか。



演劇祭に向けて練習開始！



いよいよ演劇の練習がスタートしました。シナリオの後半は未完成ですが、これから本格的な練習が始まります。

「この世はすべて舞台、人はみな役者に過ぎない。出入りの時があり、人生でいくつもの役を演じる…」

シェイクスピアの戯曲の中の一節です。出入りとは生まれてから死ぬまで、私たちの毎日の生活も、実は演劇の一部であり

- 9月04日(水)ことぶき大学学習日 15時～図書館
- 9月10日(火)13時30分～図書館3F
- 9月11日(水)13時30分～サンエーホール
- 9月14日(土)13時30分～サンエーホール
- 9月17日(木)13時30分～サンエーホール
- 9月18日(水)ことぶき大学学習日 15時～図書館
- 9月19日(木)13時30分～サンエーホール
- 9月24日(火)サンエーホール (久保氏の指導) 13時30分～
- 9月25日(水)ことぶき大学学習日 15時～図書館
- 9月26日(木)演劇工場 (久保氏の指導) 15時30分～
…………未定……
- 10月7日(月)演劇工場 (久保氏の指導) 13時30分～
…………未定……
- 10月14日(月)演劇祭当日 リハーサル後午後～出演
- 10月15日(火)三市町芸能発表会前日リハ (サンエーホール)
- 10月16日(水)三市町芸能発表交流会 当日

子ども、学生、老人の役者である。しかも、演出も自分、そしていつも自分が主役です。

楽しい毎日を送るためにもシナリオづくりと演出づくりが人生を決定づけることに繋がります。つまり、「どう生きるか」は、自分が決めることなのです…

さて、今年の演劇祭は、10月14日です。ことぶき大学では、「ことぶき村の大きなカブ I・II・III」、「還付金詐欺と認知症の老人」、「カムバック」、そして昨年は4年ぶりとなった『ドリーム「夢」』に続く第7作目です。

今年の作品名は、「MISSING (ミッシング・行方不明)」です。勿論、今さんのシナリオです。…最近、元気がない源五郎、認知症かも知れないという不安と心配する家族、その中、突然、源五郎が姿を消した…気が付くと、源五郎は生まれ故郷にきていた。ここは懐かしい生まれ故郷…源五郎は切株に腰を下ろし、人生を振り返る…「我生涯に、一片の悔いなし！本当にそうなのか」と…

学校嫌い、勉強も嫌いな源五郎だが、妻を愛し、家族を愛する源五郎…ちょっとだけ人生に疲れたようです…さあ、源五郎はこれからどう生きるのか。源五郎が初めて“人生とは何か”と問う。それは、まさしく、私たちへのメッセージでもあるのです。

源五郎、最後の演劇祭！？ 今、その幕が上がろうとしている…



ティー・タイムコーナー



下の写真は、9月3日（火曜日）朝5時の大麓山です。刷毛で描いたような雲、「巻雲」の一種でしょうか。初めて見る雲です。とても美しい雲に出会いました。この時の気温は15℃、とても涼しく湿度も低くカラッとしていましたので、この雲は湿度の影響かもしれません。

さて、NHKの大河ドラマ「光る君へ」、皆さんは観ていますか。妻は、とても興味を持って日曜の夜を楽しみにしています。役者の魅力が一番なのかもしれないけど、私は、女性の生き方に興味があると思っています。「女手」と呼ばれている女性のための、美しく流れるような「ひらがな」の発明、「ひらがな」なくして源氏物語は生まれえないし、今の日本もなかったともいえると思っています。女性の視点から見た社会や人間関係は、地位や権力中心の男性社会を根底から崩壊させる力を持っている…そんな一面を感じさせるほど、女性の存在はとても大きくて強い。平安時代は、「ひらがな」と「女性の時代」と言えると思います。さらに、このドラマの魅力は、脚本、演出、加えて挿入される音楽がまた驚くほど美しい。大石静が脚本、チーフ演出は中島由紀、音楽は冬野ユミ、すべて一環して女性、役者はその流れに身を委ねているという印象です。

私は、妻が楽しんでいる横で、こうしてことぶき通信を書いている。来月発刊される「光る君へ～完結版～」が待ち遠しい…

そろそろ第33話「式部誕生」が終わる…遅いけど、ティータイムにしましょうか！

